

FAX 飛躍

JR東労組東京地本青年部

原爆ドームを描き続け、平和を訴えた

原 廣司さん 逝く

原さんから受け継いだ平和のバトンを青年部が繋いでいこう！

核被害の象徴として原爆

ドームの絵を描き続けた被

爆者の原広司（はら・ひろ

し）さんが14日午前11時

5分、悪性中皮腫のため広

島県坂町の病院で死去し

た。87歳。



原爆が投下された194

5年8月6日、県立広島工

業学校（現県立広島工業高

1年だった原さんは、中島

新町（現中区）で建物疎開

作業に従事する予定だった

が、前日の作業の代休で江

田島の親戚宅を訪れていた

た。作業に出た1年生18

0人余りは全員が犠牲とな

った。原さんは、翌7日に

入市。後年、当時目撃した

原広司さん死去

87歳 原爆ドーム3300枚描く

惨状も描き残した。

国鉄職員を経て、旧矢野

町議を3期務めた。84年、

証言活動に取り組む被爆者

による「ヒロシマを語る会」

の創設に加わり、後に代表

にも就任。同会は95年に谷

本清平和賞を受けた。20

01年に同会が解散すると

「被爆証言の会」を設立し、

碑巡りでは自らガイドもし

た。ドームの絵は84年ごろ

に描き始め、3300枚以

上を残した。